

説明資料 ①

山鹿市都市計画マスタープラン
第5回 策定協議会説明資料

～地域別構想編の一部、実施編～

令和5年9月29日(金) 14:00～



■地域別構想編

1 地域別のまちづくり方針	P. 3
1-1 菊鹿地域	P. 4
1-2 鹿本地域	P. 12
1-3 鹿央地域	P. 21

■実施編

2 役割分担	P. 29
3 推進方策	P. 32
その他	P. 35

①地域の概況等

【概況】

- 山鹿市の東部、菊池市との市境、大分県との県境に位置し、地域の73%は八方ヶ岳を中心とした森林が占め、矢谷溪谷など自然が豊かな地域であり、上内田川・木野川流域の限られた平地に農地や集落が形成されています。
- 令和2年時点で市全体の11%程度の5,303人が居住する地域ですが、人口は減少傾向にあり、高齢化率が44.7%と地域活力の低下が伺えます。
- 本地域に都市計画区域は指定されていません。
- 基幹産業である農林業の担い手が不足し、農地や山林の荒廃が進んでいます。
- 山間部に位置する本地域は、土砂災害のリスクが高くなっています。
- 本地域に国道はなく、幹線道路である県道を市道が補完し道路網が形成されていますが、市の中心部と直接結ぶ幹線道路はありません。
- 矢谷溪谷や菊鹿温泉、鞠智城跡などの資源を有し、自然体験や観光交流、地域活力の向上にかかる取組が進められています。
- 鞠智城跡では国営公園化を目指し、熊本県や菊池市、関係団体と連携し知名度向上のため普及啓発事業などを実施しています。

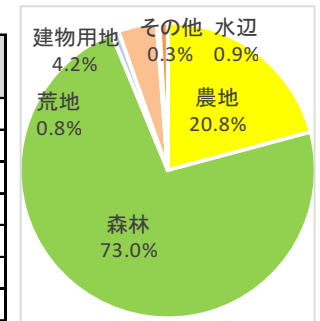


【菊鹿】	H12	H17	H22	H27	R2
総人口 (地域/全市)	7,524 (12.6%)	7,145 (12.4%)	6,673 (12.0%)	6,003 (11.5%)	5,303 (10.8%)
年少人口 (0～14歳)	1,155 (15.4%)	958 (13.4%)	727 (10.9%)	590 (9.8%)	469 (8.8%)
生産年齢人口 (15～64歳)	4,077 (54.2%)	3,736 (52.3%)	3,558 (53.3%)	3,009 (50.1%)	2,461 (46.4%)
老年人口 (65歳以上)	2,292 (30.5%)	2,446 (34.2%)	2,387 (35.8%)	2,404 (40.0%)	2,369 (44.7%)
世帯 (世帯人員)	2,084 (3.61人)	2,083 (3.43人)	2,055 (3.25人)	1,994 (3.01人)	1,922 (2.76人)

資料：国勢調査

■土地利用【菊鹿】

	面積 (ha)	割合 (%)
農地	1,607.7	20.8
森林	5,662.5	73.0
荒地	59.5	0.8
建物用地	326.6	4.2
その他の用地	21.3	0.3
水辺	68.2	0.9
合計	7,745.8	100.0

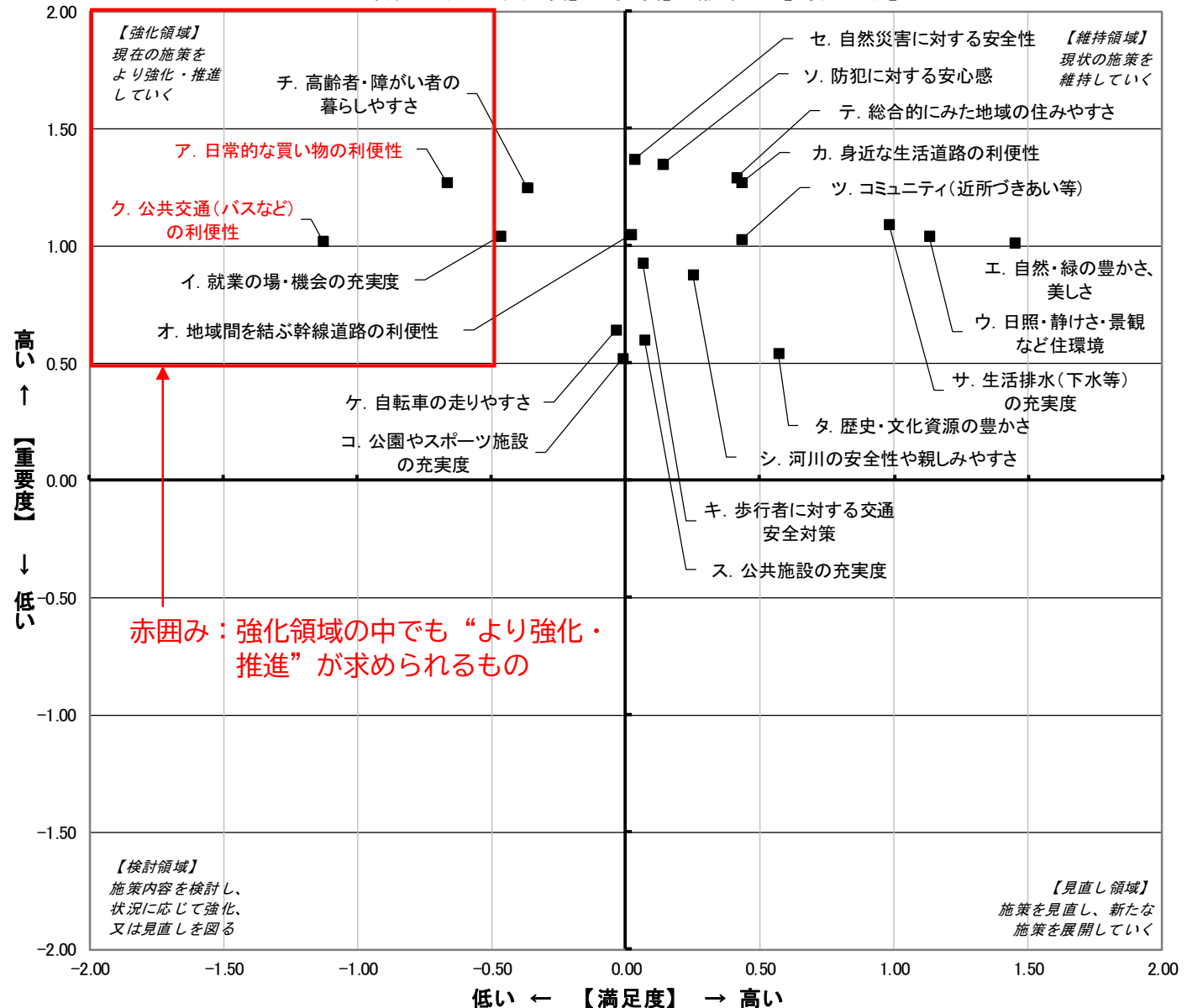


出典：土地利用細分メッシュ(国土数値情報)

【住民意向】

・菊鹿地域の「満足度」「重要度」に関する地域住民の意向をみると、満足度が低く重要度が高い「強化領域」に6項目が属しており、その中でも「公共交通（バスなど）の利便性」「日常的な買い物の利便性」は、より施策の強化・推進が求められています。

居住地域の「満足度」「重要度」の散布図【菊鹿地域】



赤囲み：強化領域の中でも“より強化・推進”が求められるもの

資料：R4. 7市民意向調査（アンケート）

※満足度と重要度の数値は、各設問の「満足・重要」を2点、「やや満足・やや重要」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満・あまり重要でない」を-1点、「不満・重要でない」を-2点として算出した得点の平均である

②地域の主要課題

【地域の魅力】

- ・日常生活を支える生活利便施設を整え、穏やかで潤いのある持続可能な地域づくりを進めることが重要です。
- ・基幹産業である農林業の振興を図りつつ、豊かで良質な自然環境や歴史・文化を保全・活用し、地域活力や観光交流の増進に展開していくことが重要です。特に鞠智城跡や菊鹿ワイナリーなどの資源の有効活用を図り、積極的に情報発信することが重要です。
- ・スローライフなど多様化するニーズに適応した交流や暮らしの場づくりが重要です。

【暮らし】

- ・豊かな自然環境と融合した、持続可能でコンパクトなまちづくりが重要です。
- ・農林業の振興及び居住環境の確保の双方の観点から、土地利用のマネジメントが重要です。
- ・日々の暮らしの質を維持するため、居住環境の整備などが重要です。
- ・都市拠点や地域拠点とのアクセスの充実が重要です。

歴史・文化と自然を育み、交流が芽生える地域 “きくか”

◆活発な交流を生み出す地域づくり

鞠智城跡や矢谷溪谷など豊かな歴史文化や自然環境の保全・活用により、地域活力や観光交流を増進し、市内外の人々の交流の芽生えとなる地域づくりを進めます。

◆豊かな自然環境と生活が共生する地域づくり

地域の7割を占める山林や上内田川・木野川、矢谷溪谷など豊かな自然環境を保全するとともに、これらの恵みを享受しつつ、生活の利便性確保、連携強化及び居住環境の整備などを図り、交流の芽生えとなる地域づくりを進めます。

①活発な交流を生み出す地域づくり

【生活拠点】

- ・ 菊鹿市民センター周辺は、地域の日常生活を支える生活拠点として、既存ストックを有効活用しながら、公共サービス機能や生活利便施設の維持・向上に努め、持続可能でコンパクトな地域づくりを進めます。

【交流核等】

- ・ 矢谷溪谷やアイラトビカズラ、良質な温泉、あんずの丘などの自然的財産、鞠智城跡や隈部氏館跡、条里制跡などの歴史的財産について、景観など地域環境と一体となった保全を図るとともに、これらの地域内連携、都市拠点など山鹿市全体との連携を強化することにより、地域活力の向上や観光交流機能の充実を図ります。
- ・ 特に鞠智城跡は、国営公園化を目指した期成会をはじめ、熊本県や菊池市などの関係団体とも連携した様々な取組により、引き続き市民の国営公園化に向けた機運の醸成に努めます。

【産業】

- ・ 農林業従事者、地域住民、関係機関、行政が連携して農林業の活性化に積極的に取り組みます。
- ・ 6次産業化等による地域農産物等の販売を強化し、地産地消の推進、農業経営の活性化を図ります。

②豊かな自然環境と生活が共生する地域づくり

【土地利用】

- ・ 営農環境の保全と良好な居住環境の形成の両立に向けて、各種法規制による適正な土地利用の誘導を図ります。
- ・ 営農環境の維持・向上を図るとともに、豊かな自然が織り成す良好な景観を守るため、住環境と調和した土地利用を誘導しながら、優良農地の保全・整備を図ります。
- ・ 耕作放棄地の発生抑制を図るとともに、人口減少・高齢化がもたらす影響を見越しながら、土地の利用・管理のあり方を検討します。
- ・ 訪れる人が自然とふれあい、安らぎを感じることができる空間として、矢谷溪谷をはじめとする豊かな自然環境の保全・活用を図ります。
- ・ 人々に安らぎを与え景観にも優れた番所地区の棚田については、積極的に保全を図り、地域住民による継承を支援します。
- ・ 水源かん養、治山をはじめとする防災対策など、森林が持つ多面的機能の維持・増進を図るため、森林地域の保全・整備を図ります。

【都市基盤施設等】

- ・ 居住環境の改善や交流促進に向けて、幹線道路をはじめとした道路の維持・整備を推進します。
- ・ 拠点へのアクセス向上や地域防災の観点からも、狭隘道路の改善、歩車分離の道路整備を進めます。
- ・ 路線バスやあいのりタクシーなど、地域の実情に応じた公共交通の充実を目指します。
- ・ モビリティ・マネジメントやMaaSなど新たな公共交通に関する考え方を取り入れつつ、AIやIoTなど今後の技術革新を視野に入れ、高齢化や過疎など地域が抱える課題に対応した公共交通のあり方を検討します。
- ・ 農業集落排水事業の区域外においては、合併処理浄化槽設置を促進します。
- ・ 地域住民の安全で良質な飲料水を確保するため、公営水道区域では水道施設の点検及び更新計画を進め、公営水道の未普及地域では各組合が管理する小規模水道施設の整備に対する支援を行います。
- ・ 公共施設等の長寿命化を計画的に進め、機能拡充など効果的な整備についても検討します。
- ・ 山間部に位置し、土砂災害のリスクが高いことから、治山・治水を推進するとともに、開発規制や建築物の構造規制、警戒避難体制の整備などを推進します。
- ・ 公共施設等の耐火・耐震、防災機能の充実を図るとともに、防災訓練及び講習会などを通じて地域住民の防災意識の向上を図るなど、自助・共助・公助の連携による地域防災体制の構築・強化を促進します。

【地域コミュニティ】

- ・ 菊鹿防犯パトロール隊や菊鹿さきもり隊による地域活動、鞠智城跡の景観形成など、地域特性やニーズに応じた質の高い地域づくりを進めるため、住民参画を積極的に促すほか、住民主体の活動支援、新たな仕組みづくり、連携強化などを図ります。

①地域の概況等

【概況】

- 山鹿市の南東部、菊池市などとの市境に位置し、菊池川流域の水の恵みを受け、地域の大部分が平坦地となっています。
- 令和2年時点で市全体の16%程度の7,695人が居住しています。人口は減少傾向にありますが、他の地域に比べ最も減少率は低くなっています。高齢化率は36.1%と地域活力の低下が伺えます。
- 本地域に都市計画区域は指定されていませんが、山鹿地域との土地利用の連坦性は高く、国道325号沿道を中心に住宅地の開発、商工業施設の立地が進んでいます。
- 基幹産業である農業の担い手が不足し、農地の荒廃が進んでいます。
- 東西に走る国道325号を県道・市道が補完し道路網が形成されています。
- 道の駅水辺プラザかもとでは、農産物の取り扱いを通じて、基幹産業である農業の活性化、交流の促進などが進められています。
- 来民商店街には、妻入り型の商家や白壁土塀が残っているなど、歴史的風情を感じる事が出来ます。

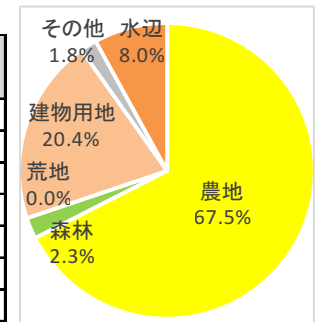


【鹿本】	H12	H17	H22	H27	R2
総人口 (地域/全市)	8,522 (14.3%)	8,484 (14.7%)	8,303 (15.0%)	7,866 (15.1%)	7,695 (15.7%)
年少人口 (0~14歳)	1,224 (14.4%)	1,159 (13.7%)	1,116 (13.4%)	1,049 (13.3%)	1,031 (13.4%)
生産年齢人口 (15~64歳)	4,993 (58.6%)	4,881 (57.5%)	4,682 (56.4%)	4,246 (54.0%)	3,862 (50.2%)
老年人口 (65歳以上)	2,305 (27.0%)	2,438 (28.7%)	2,488 (30.0%)	2,571 (32.7%)	2,781 (36.1%)
世帯 (世帯人員)	2,651 (3.21人)	2,746 (3.09人)	2,787 (2.98人)	2,799 (2.81人)	2,875 (2.68人)

資料：国勢調査

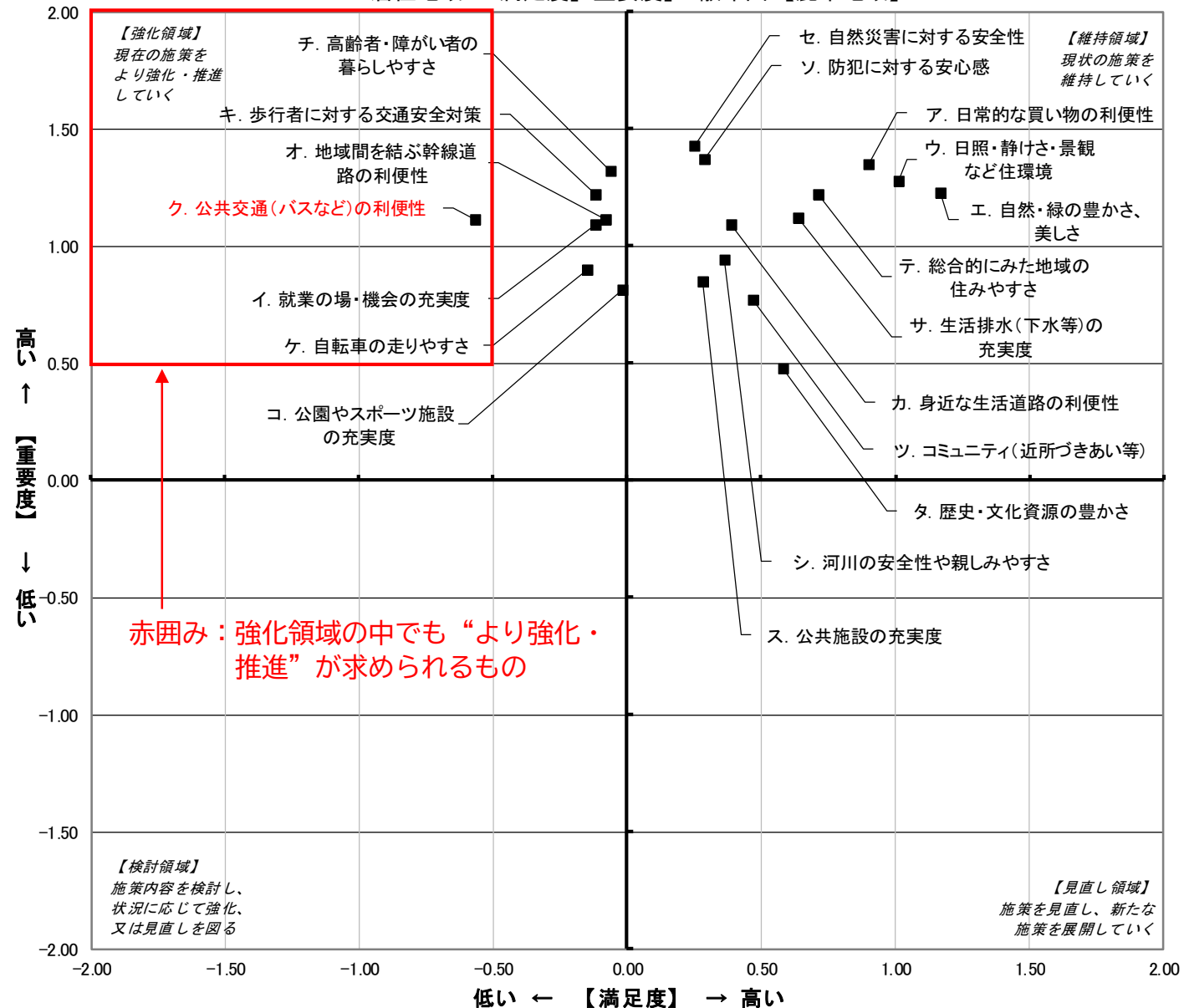
■土地利用【鹿本】

	面積 (ha)	割合 (%)
農地	1,185.8	67.5
森林	40.8	2.3
荒地	0.0	0.0
建物用地	359.3	20.4
その他の用地	32.4	1.8
水辺	139.9	8.0
合計	1,758.1	100.0



出典：土地利用細分メッシュ(国土数値情報)

居住地域の「満足度」「重要度」の散布図【鹿本地域】



【住民意向】

鹿本地域の「満足度」「重要度」に関する地域住民の意向をみると、満足度が低く重要度が高い「強化領域」に7項目が属しており、その中でも「公共交通（バスなど）の利便性」は、より施策の強化・推進が求められています。

赤囲み：強化領域の中でも“より強化・推進”が求められるもの

資料：R4. 7市民意向調査（アンケート）

※満足度と重要度の数値は、各設問の「満足・重要」を2点、「やや満足・やや重要」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満・あまり重要でない」を-1点、「不満・重要でない」を-2点として算出した得点の平均である

②地域の主要課題

【地域の魅力】

- ・都市拠点を補完する地域として、都市機能の集積や市民交流による賑わいの創出を図ることが重要です。
- ・菊池川などの親水性、来民商店街の歴史的風情の残る街並み、6次産業化等による特産品など地域特性が融合した新たな魅力を創出し、道の駅水辺プラザかもとを核として積極的に情報発信することが重要です。
- ・基幹産業である農業の振興を図りつつ、交通利便性の優位性を生かした新たな雇用の場の創出を検討することも重要です。

【暮らし】

- ・都市拠点を補完する地域として、賑わいや地域活力の創出を図りつつ、自然環境にも配慮したコンパクトなまちづくりが重要です。
- ・道路整備や開発動向、都市拠点との土地利用の連坦性等を考慮した計画的な土地利用が重要です。
- ・多様な世代が安全・安心・快適に暮らすため、居住環境の整備などが重要です。
- ・拠点及び交流核とのアクセスの充実が重要です。

自然と生活が融合し、賑わいと活力を支える地域 “かもと”

◆生き生きと活動する地域づくり

道の駅水辺プラザかもとを核として、豊かな自然や歴史文化を生かした交流促進を図ることにより、市内外の人々の賑わいと活力を支える地域づくりを進めます。

◆暮らしの利便性とゆとりある地域づくり

自然環境に配慮した計画的な土地利用や居住環境の整備、アクセスの充実などにより、人口密度や都市機能の確保を図り、賑わいと活力を支える地域づくりを進めます。

①生き生きと活動する地域づくり

【地域拠点】

- ・ 国道325号を軸として中心市街地と連坦し、一定程度の都市機能が集積する鹿本市民センター周辺では、周辺地域の暮らしを支える都市機能の立地を誘導し、都市拠点を補完する地域拠点の形成を図ります。
- ・ なお、地域拠点の中核施設である鹿本市民センターは、図書館や子育て支援施設など複合機能を備えていることから、市民交流の拠点として、また多様な世代で賑わう拠点として機能の維持・増進を目指します。
- ・ 治安、景観、居住環境、産業基盤の悪化、災害危険度の増大などのリスクを有する空き家や空き店舗を積極的に活用し、地域拠点における暮らしの質や活力の向上を図ります。

【交流核等】

- ・ 本市の東の玄関口としておもてなしの空間を演出するとともに、道の駅水辺プラザかもとを核とした特産品や観光資源の情報発信を進めます。
- ・ 菊池川が有する多様な機能を生かし、市民や来訪者に親しまれる散策路やレクリエーション機能の整備を図ることで、親水性に優れた河川空間を創出します。
- ・ 特に、道の駅水辺プラザかもとを核として、菊池川、上内田川の親水性を高めることにより、来訪者が水辺に親しむ機会が創出され、観光交流の機能増進につながることも期待されます。

【産業】

- ・都市活力の向上や雇用の場の創出となる企業誘致に向けて、交通利便性の優位性がより発揮される国道325号沿いを中心に企業用地の適地を検討し、都市基盤整備など操業環境の充実に努めます。
- ・歴史的風情の残る来民商店街においては、景観に配慮するとともに、商工会など各種団体との連携を強化し、魅力ある空間の形成と地域活力の向上を目指します。
- ・農林業従事者、地域住民、関係機関、行政が連携して農林業の活性化に積極的に取り組みます。
- ・6次産業化等による地域農産物等の販売を強化し、地産地消の推進、農業経営の活性化を図ります。
- ・なお、特産品開発等においては、生産者、地元高校、住民など多様な主体との連携を図り、魅力あるものづくりなどにより地域活力の向上を図るとともに、郷土愛の醸成にもつなげていきます。

②暮らしの利便性とゆとりある地域づくり

【土地利用】

- ・用途地域の指定検討も視野に入れながら、農振法等の活用を原則として、秩序ある土地利用により、コンパクトなまちづくりを推進します。
- ・国道325号の4車線化など道路整備に伴う土地利用の改変や山鹿地域との土地利用の連坦性を考慮し、計画的な土地利用の誘導を目指した都市計画区域及び用途地域の指定の検討を行います。
- ・都市計画区域及び用途地域の指定を検討する際には、都市拠点の補完という地域特性や、住宅・企業用地等の確保など山鹿市を取り巻く環境を勘案するとともに、良好な住環境の創出や農業振興、自然環境の保全などの観点から、適正な土地利用の規制・誘導について検討します。
- ・市街地周辺の集落地では、営農環境の保全と良好な住環境の形成に向けて、自然環境と生活環境が調和した土地利用を図ります。
- ・営農環境の維持・向上を図るとともに、豊かな自然が織り成す良好な景観の保全を図るため、優良農地の保全・整備を図ります。
- ・耕作放棄地の発生抑制を図るとともに、人口減少・高齢化がもたらす影響を見越しながら、土地の利用・管理のあり方を検討します。
- ・訪れる人が自然とふれあい、安らぎを感じることができる空間として、菊池川や一本松公園をはじめとする豊かな自然環境の保全・活用を図ります。

【都市基盤施設等】

- ・ 居住環境の改善や交流促進に向けて、幹線道路をはじめとした道路の維持・整備を推進します。
- ・ 拠点へのアクセス向上や地域防災の観点からも、狭隘道路の改善、道路のバリアフリー化を進めます。
- ・ 路線バスやあいのりタクシーなど、地域の実情に応じた公共交通の充実を目指します。
- ・ モビリティ・マネジメントやMaaSなど新たな公共交通に関する考え方を取り入れつつ、AIやIoTなど今後の技術革新を視野に入れ、高齢化や過疎など地域が抱える課題に対応した公共交通のあり方を検討します。
- ・ 公共下水道及び農業集落排水事業の区域外においては、合併処理浄化槽設置を促進します。
- ・ 地域住民の安全で良質な飲用水を確保するため、公営水道区域では水道施設の点検及び更新計画を進め、公営水道の未普及地域では各組合が管理する小規模水道施設の整備に対する支援を行います。
- ・ 公共施設等の長寿命化を計画的に進め、機能拡充など効果的な整備についても検討します。
- ・ 菊池川による洪水浸水想定区域では、居住誘導も視野に入れながら、ハード・ソフト対策による安全性の向上に努めます。
- ・ 災害時の活動や復興の拠点となることから、公共施設等の耐火・耐震、防災機能の充実を図るとともに、防災訓練及び講習会などを通じて地域住民の防災意識の向上を図るなど、自助・共助・公助の連携による地域防災体制の構築・強化を促進します。

【地域コミュニティ】

- ・ 道の駅水辺プラザかもとでの地元特産品等の販売、来民商店街の景観形成など、地域特性やニーズに応じた質の高い地域づくりを進めるため、住民参画を積極的に促すほか、住民主体の活動支援、新たな仕組みづくり、連携強化などを図ります。

①生き生きと活動する地域づくり

【地域拠点】

- ・ 鹿本市民センター周辺における都市機能の立地誘導
- ・ 鹿本市民センターにおける市民・世代間交流の機能の維持・増進
- ・ 暮らしの質や活力の向上

【交流核等】

- ・ おもてなし空間の演出
- ・ 道の駅水辺プラザかもとを核とする情報発信
- ・ 親水性に優れた河川空間の創出と観光交流の機能増進

【産業】

- ・ 企業用地の適地検討と操業環境の充実
- ・ 来民商店街における魅力ある空間形成と地域活力の向上
- ・ 農業の活性化
- ・ 地産地消の推進、農業経営の活性化
- ・ 魅力あるものづくりによる地域活力の向上と郷土愛の醸成

②暮らしの利便性とゆとりある地域づくり

【土地利用】

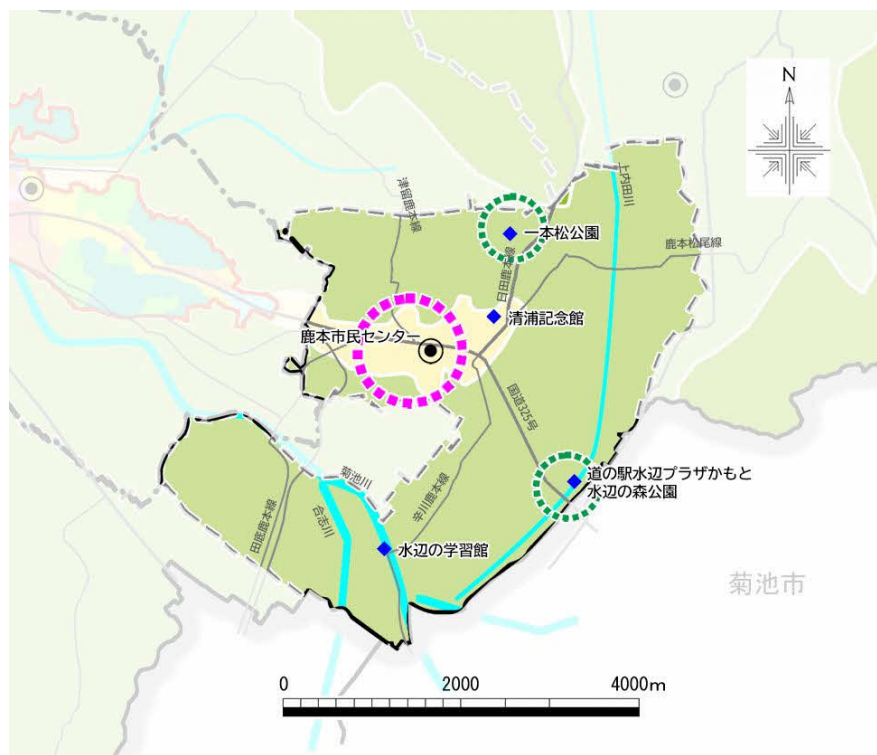
- ・ 秩序ある土地利用とコンパクトなまちづくり
- ・ 都市計画区域及び用途地域の指定検討
- ・ 適正な土地利用の規制・誘導
- ・ 自然環境と生活環境が調和した土地利用
- ・ 優良農地の保全・整備
- ・ 土地の利用・管理のあり方の検討
- ・ 豊かな自然環境の保全・活用

【都市基盤施設等】

- ・ 道路の維持・整備、狭隘道路の改善など
- ・ 公共交通の充実やあり方検討
- ・ 合併処理浄化槽設置の促進
- ・ 水道施設の点検及び更新計画、小規模水道施設の整備支援
- ・ 公共施設等の長寿命化
- ・ 洪水浸水想定区域の安全性の向上
- ・ 地域防災体制の構築・強化

【地域コミュニティ】

- ・ 住民参画、住民主体の活動支援、新たな仕組みづくり、連携強化



- 凡 例
- 地域拠点
 - 交流核
 - ◆ 観光交流施設等
 - 市街地ゾーン
 - 自然共生ゾーン
 - 山林ゾーン
 - 市役所、市民センター
 - 高速道路・国道・県道
 - - - 5地域
 - 用途地域
 - - - 都市計画区域

①地域の概況等

【概況】

- 山鹿市の南部、熊本市などとの市境に位置し、山林や農地など自然豊かな地域が形成されています。
- 令和2年時点で市全体の8%程度の3,990人が居住する地域ですが、人口は減少傾向にあり、高齢化率が41.9%と地域活力の低下が伺えます。
- 本地域に都市計画区域は指定されていません。
- 基幹産業である農林業の担い手が不足し、農地や山林の荒廃が進んでいます。
- 山間部が広がる本地域は、土砂災害のリスクが高くなっています。
- 北東部を国道3号、南部を九州縦貫自動車道が横断していますが、暮らしの観点からみると、南北に走る県道山鹿植木線が幹線軸となっています。
- 肥後古代の森鹿央地区の古墳群や古代ハス園、鹿央物産館を中心に、自然体験や観光交流にかかる取組が進められています。

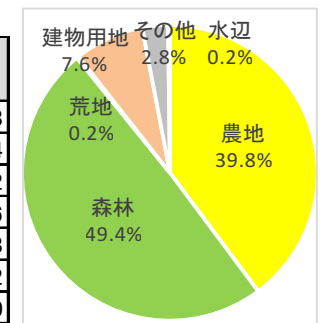


【鹿央】	H12	H17	H22	H27	R2
総人口 (地域/全市)	5,211 (8.8%)	5,082 (8.8%)	4,780 (8.6%)	4,425 (8.5%)	3,990 (8.1%)
年少人口 (0~14歳)	702 (13.5%)	623 (12.3%)	552 (11.5%)	478 (10.8%)	414 (10.4%)
生産年齢人口 (15~64歳)	2,984 (57.3%)	2,853 (56.1%)	2,668 (55.8%)	2,280 (51.5%)	1,903 (47.7%)
老年人口 (65歳以上)	1,525 (29.3%)	1,599 (31.5%)	1,560 (32.6%)	1,667 (37.7%)	1,673 (41.9%)
世帯 (世帯人員)	1,472 (3.54人)	1,497 (3.39人)	1,466 (3.26人)	1,436 (3.08人)	1,397 (2.86人)

資料：国勢調査

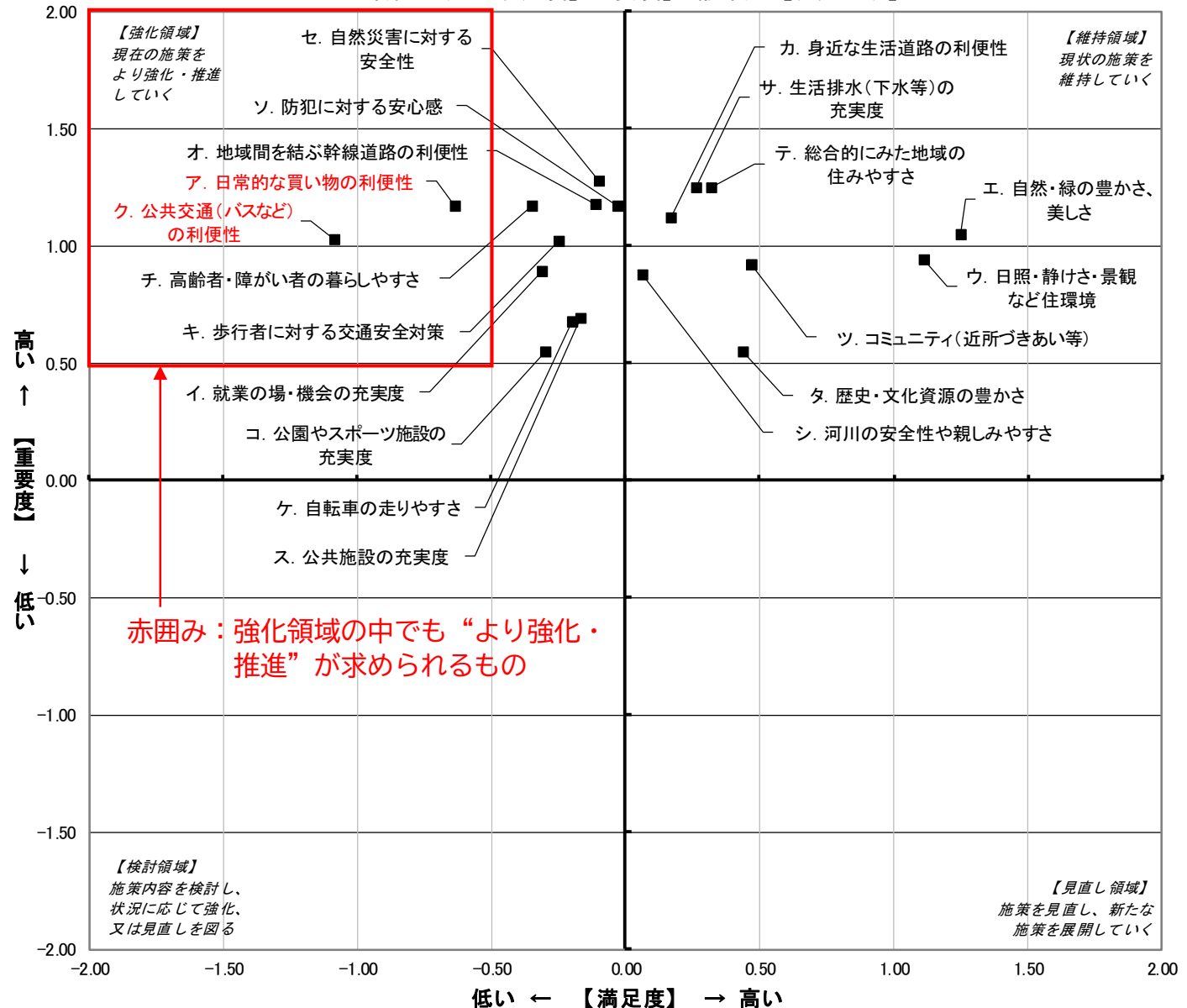
■土地利用【鹿央】

	面積 (ha)	割合 (%)
農地	1,245.4	39.8
森林	1,545.0	49.4
荒地	7.1	0.2
建物用地	239.1	7.6
その他の用地	86.8	2.8
水辺	5.4	0.2
合計	3,128.9	100.0



出典：土地利用細分メッシュ(国土数値情報)

居住地域の「満足度」「重要度」の散布図【鹿央地域】



【住民意向】

鹿央地域の「満足度」「重要度」に関する地域住民の意向をみると、満足度が低く重要度が高い「強化領域」に11項目が属しており、その中でも「公共交通（バスなど）の利便性」「日常的な買い物の利便性」は、より施策の強化・推進が求められています。

赤囲み：強化領域の中でも“より強化・推進”が求められるもの

資料：R4. 7市民意向調査（アンケート）

※満足度と重要度の数値は、各設問の「満足・重要」を2点、「やや満足・やや重要」を1点、「どちらでもない」を0点、「やや不満・あまり重要でない」を-1点、「不満・重要でない」を-2点として算出した得点の平均である

②地域の主要課題

【地域の魅力】

- ・日常生活を支える生活利便施設を整え、穏やかで潤いのある持続可能な地域づくりを進めることが重要です。
- ・豊かな自然環境や歴史・文化を生かした体験型の学習や観光など、都市住民との交流による地域活力の向上を図ることが重要です。
- ・基幹産業である農林業の振興を図りつつ、交通利便性の優位性を生かした新たな雇用の場の創出を検討することも重要です。

【暮らし】

- ・豊かな自然環境と融合した、持続可能でコンパクトなまちづくりが重要です。
- ・農林業の振興、居住環境の確保及び開発動向等の観点から、土地利用のマネジメントが重要です。
- ・日々の暮らしの質を維持するため、居住環境の整備などが重要です。
- ・都市拠点とのアクセスの充実が重要です。

自然と歴史・文化に触れ、健やかに活動する地域 “かおう”

◆自然と歴史・文化に触れる地域づくり

肥後古代の森鹿央地区の古墳群や古代ハス園、鹿央物産館などを生かして、自然と歴史・文化が融合した体験交流を促進し、市内外の人々が健やかに活動する地域づくりを進めます。

◆豊かな自然環境と生活が共生する地域づくり

農地や山林など豊かな自然環境を保全するとともに、これらの恵みを享受しつつ、生活の利便性確保、連携強化及び居住環境の整備などを図り、健やかに活動する地域づくりを進めます。

①自然と歴史・文化に触れる地域づくり

【生活拠点】

- ・鹿央市民センター周辺は、地域の日常生活を支える生活拠点として、既存ストックを有効活用しながら公共サービス機能や医療・福祉・商業施設などの生活利便施設の維持・向上に努め、持続可能でコンパクトな地域づくりを進めます。

【交流核等】

- ・本市の南の玄関口としておもてなしの空間を演出するとともに、鹿央物産館やJ Aかもとファーマーズマーケットを核とした特産品や観光資源の情報発信を進めます。

【産業】

- ・都市活力の向上や雇用の場の創出となる企業誘致に向けて、交通利便性の優位性がより発揮される国道3号沿いを中心に企業用地の適地を検討し、都市基盤整備など操業環境の充実に努めます。
- ・農林業従事者、地域住民、関係機関、行政が連携して農林業の活性化に積極的に取り組みます。
- ・6次産業化等による地域農産物等の販売を強化し、地産地消の推進、農業経営の活性化を図ります。

②豊かな自然環境と生活が共生する地域づくり

【土地利用】

- ・ 営農環境の保全と良好な居住環境の形成の両立に向けて、各種法規制による適正な土地利用の誘導を図ります。
- ・ 営農環境の維持・向上を図るとともに、豊かな自然が織り成す良好な景観を守るため、住環境と調和した土地利用を誘導しながら、優良農地の保全・整備を図ります。
- ・ 耕作放棄地の発生抑制を図るとともに、人口減少・高齢化がもたらす影響を見越しながら、土地の利用・管理のあり方を検討します。
- ・ 訪れる人が自然とふれあい、安らぎを感じることができる空間として、肥後古代の森鹿央地区をはじめとする豊かな自然環境の保全・活用を図ります。
- ・ 水源かん養、治山をはじめとする防災対策など、森林が持つ多面的機能の維持・増進を図るため、森林地域の保全・整備を図ります。

【都市基盤施設等】

- ・ 居住環境の改善や交流促進に向けて、幹線道路をはじめとした道路の維持・整備を推進します。
- ・ 拠点へのアクセス向上や地域防災の観点からも、狭隘道路の改善、歩車分離の道路整備を進めます。
- ・ 路線バスやあいのりタクシーなど、地域の実情に応じた公共交通の充実を目指します。
- ・ モビリティ・マネジメントやMaaSなど新たな公共交通に関する考え方を取り入れつつ、AIやIoTなど今後の技術革新を視野に入れ、高齢化や過疎など地域が抱える課題に対応した公共交通のあり方を検討します。

- ・農業集落排水事業の区域外においては、合併処理浄化槽設置を促進します。
- ・地域住民の安全で良質な飲料水を確保するため、公営水道区域となった水道施設では点検及び更新計画を進め、公営水道の未普及地域では各組合が管理する小規模水道施設の整備に対する支援を行います。
- ・公共施設等の長寿命化を計画的に進め、機能拡充など効果的な整備についても検討します。
- ・山間部が広く、土砂災害のリスクが高いことから、治山・治水を推進するとともに、開発規制や建築物の構造規制、警戒避難体制の整備などを推進します。
- ・公共施設等の耐火・耐震、防災機能の充実を図るとともに、防災訓練及び講習会などを通じて地域住民の防災意識の向上を図るなど、自助・共助・公助の連携による地域防災体制の構築・強化を促進します。

【地域コミュニティ】

- ・肥後古代の森鹿央地区での自然歴史体験など、地域特性やニーズに応じた質の高い地域づくりを進めるため、住民参画を積極的に促すほか、住民主体の活動支援、新たな仕組みづくり、連携強化などを図ります。

①自然と歴史・文化に触れる地域づくり

【生活拠点】

- ・持続可能でコンパクトな地域づくり

【交流核等】

- ・おもてなし空間の演出
- ・鹿央物産館やJAかもとファーマーズマーケットを核とする情報発信

【産業】

- ・企業用地の適地検討と操業環境の充実
- ・農林業の活性化
- ・地産地消の推進、農業経営の活性化

②豊かな自然環境と生活が共生する地域づくり

【土地利用】

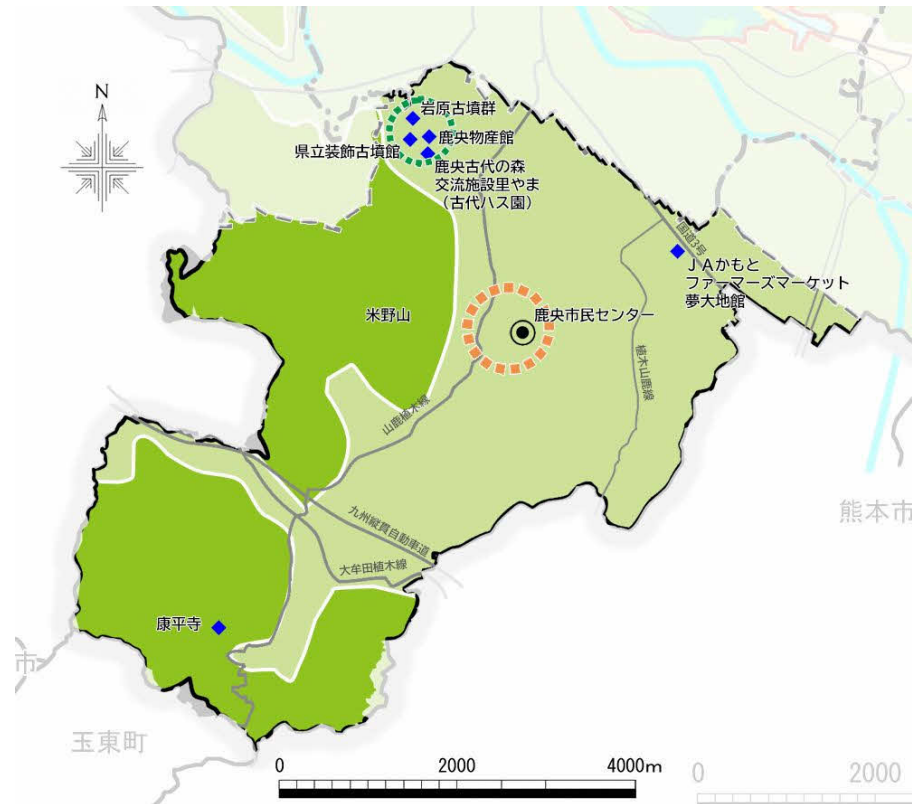
- ・適正な土地利用の誘導
- ・優良農地の保全・整備
- ・土地の利用・管理のあり方の検討
- ・豊かな自然環境の保全・活用
- ・森林地域の保全・整備

【都市基盤施設等】

- ・道路の維持・整備、狭隘道路の改善など
- ・公共交通の充実やあり方検討
- ・合併処理浄化槽設置の促進
- ・水道施設の点検及び更新計画、小規模水道施設の整備支援
- ・公共施設等の長寿命化
- ・治山・治水、開発規制や建築物の構造規制、警戒避難体制の整備
- ・地域防災体制の構築・強化

【地域コミュニティ】

- ・住民参画、住民主体の活動支援、新たな仕組みづくり、連携強化



凡例

- 生活拠点
- 交流核
- 観光交流施設等
- 市街地ゾーン
- 自然共生ゾーン
- 山林ゾーン
- 市役所、市民センター
- 高速道路・国道・県道
- 5地域
- 用途地域
- 都市計画区域

▼基本的な考え方

- ・人口減少社会、少子・高齢化の進展、地方分権の進展など社会経済情勢が変化する中、複雑・多様化するニーズを的確に捉えたまちづくりを進めていくためには、自主・自立の精神のもと、市民や事業者等がまちづくりに主体的に関わることが重要です。
こうしたことから、行政がその仕組みや体制を整え、協働のまちづくりを推進していきます。
なお、様々な主体が関わるまちづくりにおいては、目指すべき方向性を共有する必要があることから、都市計画マスタープランがその指針となります。

○市民の役割

- ・事業者や行政などとの連携を図りつつ、景観づくりや公園管理など身近なまちづくり活動に積極的に参加するとともに、身近な生活環境の改善など、自らできることを積極的に行います。

○事業者等の役割

- ・市民や行政と連携・協力するとともに、社会的な役割や専門知識の活用という観点から、景観づくりや地域の活性化などの活動を積極的に行います。

○行政の役割

【情報提供】

- ・まちづくりに関する様々な情報の収集を行い、広報誌やホームページ、SNSなど様々な媒体を活用しながら、計画段階からなど積極的な情報提供を行います。

【支援の充実】

- ・市民等が主体の勉強会やまちづくり計画の作成・実現に向けて、段階に応じて適切な助言や専門家の派遣、助成制度の適用などの支援充実を図ります。

【庁内体制の充実】

- ・多様なニーズへの柔軟な対応を図るため、庁内関係部局が連携するとともに、横断的な連絡・調整体制を確立し、総合的かつ効果的なまちづくりを推進します。

【関係機関等との連携】

- ・まちづくりに関する広域的な連携や調整を図るため、国や熊本県、近隣市町など関係機関等との連携を強化します。

○都市計画の決定・変更

- ・社会経済情勢や将来の見通し、地域特性、計画の熟度、住民意向等を的確に判断しながら、適切な時期に都市計画の決定・変更を実施します。

○計画の進行管理

- ・都市計画マスタープランは、長期的・総合的な視点から本市の将来像を示し、その実現に向けた大きな道筋を明らかにしています。
しかし、人口減少・少子高齢社会を迎え、厳しい財政状況の中で、計画策定段階では施策の具体を全て示すには限界があることから、策定後に適切な政策判断が可能となる弾力性のある計画となっています。
また本計画策定後、山鹿市総合計画や山鹿都市計画区域マスタープランなど上位・関連計画の見直し、地区レベルでの新たなまちづくり計画やルール策定も十分に想定されます。
さらに、本市を取り巻く社会経済情勢や地域の状況なども大きく変化することも想定されます。
こうしたことから、次頁のPDCAサイクルに基づき、本計画で位置づけた施策等を着実に実施するとともに、その成果を点検・評価し、改善を図り、必要に応じて計画の見直しを実施します。
また、各段階で積極的な市民・事業者等のまちづくりへの関与も求められます。

○計画の進行管理

行政は・・・

①計画立案 (Plan)

目標を実現するための計画（区域、施策、事業等）を立案します。

②施策実施 (Do)

施策やプロジェクト等を実施します。併せて、その成果の測定も行います。

③点検・評価 (Check)

指標等に照らし合わせて、成果を点検・評価します。

④改善 (Action)

点検結果をもとに計画を見直し、改善に必要な措置を講じます。

市民・事業者は・・・

①参画 (Plan)

まちづくりへの主体的な意識を持ち、計画立案段階から参画します。

②活動 (Do)

身近なまちづくり活動、自らできる活動を積極的に行います。

③気づき (Check)

普段の生活からまちづくりを意識し、様々な気づきに努めます。

④提案 (Action)

気づきをもとに、まちづくりに対する自らの思いを提案します。



